

『デザイン・トランスフォーメーションを考える』

— Sestet Sharing Methods と Wise Communication が実現するデザイン・トランスフォーメーション —

サステナブル・イノベーションズ株式会社

代表取締役社長 池邊純一

2023年4月

- ・ 「デザイン・トランスフォーメーション DeX “Decisive Transformation”」は、(1) ビジネス環境の急速な変化に対応するだけでなく、変化を巻き起こしていく『決断力のある変革』、(2) 企業が「社会への貢献(社会問題の解決)」と「長期的、持続的収益拡大」をバランスよく実現して「社会から信頼される持続可能な競争優位性」を獲得していく『果敢な変革』、という意味です。
- ・ 「6つの共有 “Sestet Sharing Methods 2.0”」は、①目的を共有する、②思考(思考方法)を共有する、③直観(ビジネスセンス)を共有する、④変革を共有する、⑤実現を共有する、⑥情報を共有する、の6つの共有です。
- ・ 「ワイズ・コミュニケーション “Wise Communication”」は、「6つの共有 “Sestet Sharing Methods”」を相互理解と共感の土台とし、「真の意思疎通」を実現するために、西欧と東洋の叢智を取り入れた『仮説と検証による議論』のコミュニケーションです。

1. 問題認識 Sestet Sharing Methods と Wise Communication によりデザイン・トランスフォーメーションを巻き起こす

“Sustainability”に向けて社会は急速に変化しています。この時代の流れに私たちは乗り遅れることなく、むしろ、先んじて社会環境の変化を創造し、ダイナミックに進化し適応していくにはどうしたらよいのでしょうか。

バブル経済崩壊以降 30 年余り、経済成長が停滞している日本において根本的に必要とされるのは、社会変革であり、そうした変革を起こしうるイノベーション、すなわち、社会変革イノベーションによる「デザイン・トランスフォーメーション」です。

2. 目的 「自分たちの “Well-being” と「デザイン・トランスフォーメーション」を結びつける

ワイズ・コミュニケーションは、[1] 組織の中で働く人たちの協働意欲を高めて、[2] 自らも「真の意思疎通」を行う一人として主体的に自律して「知の探索と知の深化」を行うきっかけとなり、[3] こうした人たちの「知の交流と交換」がセレンディピティを生み出し、[4] 様々な創発(イノベーション)を起こしうるというものです。

本フォーラムは、参加される皆様のお一人ひとりが、心の底から願っている「自分たちの “Well-being”」を「デザイン・トランスフォーメーション」に結びつけていけるようにすることを目的として開催するものです。

※当社では“Well-being”は「善き存在」「より善く生きる」「幸福である人生を送ること」と訳して使用しています。人は誰も“Well-being”である生き方であり働き方をしたいと願って生きているとも言えます。

3. 基本思想 Well-being を目指し、“Ethical and Green Economy” 社会を実現していく

現在、2030 年までの目標として SDGs “Sustainable Development Goals” の取り組みが社会に浸透してきています。そこで、私たちは、まず、以下のことを成し遂げていかなければなりません。

- (1) 人は誰もが 生きる目的 “purpose” を持って生きています。そのためには、「如何にあるべきか “What to be”」を追求する生き方であり働き方であり、Well-being を目指すこと、すなわち、「善き存在」「より善く生きる」「幸福である人生を送ること」を求める生き方であり働き方を成し遂げていかなければなりません。
- (2) 人は誰もが 経済的に裕福に暮らしていけること を求めています。①一人ひとりの自由で安全で衛生的に暮らしていける権利(人権)が尊重されること、②将来社会に向けて地球温暖化問題や自然の生態系の破壊問題が解決されること、の2つが成し遂げなければなりません。

20 世紀は経済成長 “Economic Growth” を求めた時代でしたが、21 世紀の社会は『一人ひとりの Well-being』『エシカルグリーン “Ethical and Green Economy”』を求める時代です。これこそが「デザイン・トランスフォーメーション」が目指す社会です。

※当社では『パーパス “purpose”』を「企業の存在意義、個々人の生きる目的」と訳して使用しています。それは規範的な経営理念とは異なり「如何にあるべきか “What to be”」を追求する生き方であり働き方を通して初めて表現することができます。

3. 基本方針 「共感の深化と協創の心」を育む

近代化の思想の下で暮らしていると、ついつい経済合理性を優先して、マクロな視点でステレオタイプに単純化して考えてしまいます。しかし、多様性の重要性が認識され個性を大切にしていこうというこれからの社会においては、一人ひとりの日々の暮らしに着目してミクロな視点からその深層にある価値を見出ししていくことが、これまで以上に求められるようになっていきます。

- ・ 『サステナビリティ』は、「今の目の前のこと」を合理的に解決することだけでは実現できません。
- ・ マクロ経済、マクロマーケティングの発想では、社会の中で暮らしている一人ひとりの生き方や心情をつかみとることはできません。
- ・ ステレオタイプな取り組みでは、個々人が求める Well-being にはつながりません。

「Well-being を目指し、“Ethical Green Economy” 社会」を実現していくためには、一人ひとりが、暮らしの中で叶えたいと心の深層で感じていることへ「共感の深化」と「協創の心」によって取り組んでいくことが求められます。

※「共感の深化」は、頭で考えついた共感ではありません。相手と同じ目線で感じ、気持ちを心の底から分かち合う過程を通して起こってくる共感です。さらに、深化した共感とは、相手を変えさせようとするのではなく、一緒に解決していきたいという心の中の声、すなわち、「協創の心」を生み出します。

4. 進め方 「6つの共有 “Sestet Sharing Methods 2.0”」

『仮説と検証による議論』は、「共感の深化」と「協創の心」を湧き上がらせ掘り下げていく重要なプロセスです。『サステナブル・イノベーションダイアログフォーラム』では、『仮説と検証による議論』を通して「共感の深化」と「協創の心」を深掘りし「自分たちの “Well-being”」と「デサインプ・トランスフォーメーション」を結びつけて参ります。

1. “Well-being” を目指した働き方、“Ethical Green Economy” の事例についてディスカッションします。
2. 『仮説と検証による議論』を通して「共感の深化」と「協創の心」を湧き上がらせ掘り下げて参ります。
3. 「目的の共有」「思考（思考方法）の共有」「直観（ビジネスセンス）の共有」「変革の共有」「実現の共有」「情報の共有」による真の意思疎通のあり方を深めて参ります。



経済格差が社会問題となっています。一方、これまでの経済性という発想を、社会の持続可能な発展という発想に転換すると、そこには、誰にとっても平等に心豊かさを求める世界が広がっていきます。皆様の奮ってのご参加をお待ち致します。

以上